2018 年度 第 2 回 順天堂大学医学部附属順天堂医院
医療安全に関する監査委員会　実施報告書

日　時：2019 年 3 月 11 日（月）14：00～15：15
場　所：4 号館 7 階 会議室
来訪者：東京都医師会会長：尾﨑 治夫 様
　　早稲田大学 客員教授：村山 徹 様
対応者：院長：天野 篤
　　医療安全管理責任者：金子 和夫
　　医療安全推進部部長：小林 弘幸
　　事務部部長：米澤 和彦
　　医薬品安全管理責任者：佐藤 邦義
　　臨床工学技士長：中村 昭也
　　医療安全管理室：医師　：室長 川﨑 志保理、副室長 山本 宗孝、鈴木 麻衣
　　看護師：櫻井 順子（医療安全管理者）、養田 絢子
　　薬剤師：松本 雅弘、事務員：金子 真弘、唐澤 沙織

タイムスケジュール：

1.　開会挨拶	14：00-14：05
2.　業務状況報告	
1）前回監査指摘事項に関する報告	14：05-14：10
2）医療安全管理責任者業務状況報告(2018 年 4 月～9 月)	14：10-14：15
3）医療安全管理室業務状況報告（同上）	14：15-14：30
4）医療安全管理委員会業務状況報告（同上）	14：30-14：40
5）高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等実施状況報告（同上）	14：40-14：45
6）医薬品安全管理責任者業務状況報告（同上）	14：45-14：55
7）医療機器安全管理責任者業務状況報告（同上）	14：55-15：05
3.　監査委員からの質疑、講評	15：05-15：15

監査結果：
(前回指摘事項に対する改善状況について)
1.　医療安全における効率化の推進
→　患者のバイタルサイン、生命兆候などを点数化し、患者の急変リスクを予測する「早期警戒スコア判定システム」の自動計算化が 2018 年 8 月より開始されており、これにより、「早期警戒スコア判定システム」の有効活用が大いに期待できる。

2.　シミュレーション教育の導入
→　「早期警戒スコアを用いた正確な患者評価が行える」ことを目標とした、スタッフ教育プログラムが実施されていた。

3. 医療事故減少に向けた取り組みの実践

・ 医療事故防止システムの構築

→ 2018 年 8 月 1 日より、画像読影レポート確認システムの運用が開始されていた。これにより、パニック値の定義外であるが、検査目的以外で異常が疑われ、患者の生命予後に影響を及ぼす可能性がある結果（要精査結果）については、放射線科より検査依頼科へ直接電話報告することにより、遅滞なく対応しているとのことであった。

・ 職員一人ひとりが「おかしい」と気づく感性を磨くこと

→ 早期警戒スコアが高くなかったにもかかわらず急変した事例について、今後分析を行っていくとのことであった。

・ 他職種間での情報共有の強化、風通しのよい環境（上司が下司の意見に対し聞く耳を持つ等）の整備

→ リスクマネジメントニュースレターを発行し全職員に対し注意喚起を行っていた。

・ 「おかしい」の具体例を記録し、職員に教示すること

→ 2018 年 7 月のセーフティーレクチャーで、2017 年度に発生した患者識別関連のインシデント事例が教示されていた。

(評価項目)

・ 良好に業務が遂行されており、前回指摘事項に対して前向きな取り組みを行われていた。

(提言項目)

・ 医療安全における効率化の推進として取り組まれた「早期警戒スコア判定システムの自動計算化」により、得られたデータや対応等の記録の蓄積及び分析

⇒ 「J-STAT Call」が発報されたケースでの「早期警戒スコア判定システム」の活用状況について、定期的に調査を行う。

・ 医療安全管理部門への報告件数・報告内容の適正化の推進

⇒ 画像読影レポート確認システムの運用から半年以上が経過している。パニック値、要精査結果の報告基準が適正であるかを見直し、改めて基準および運用を明確化する。

⇒ インシデントレポートシステムへの報告事項の有効活用を検討する。

・ IT 化の促進

⇒ 医師の周辺業務（雑務）等における IT 化を実施する。

⇒ 世界最先端の病院の活動内容をベンチマークとし、当院との差異・隔たりを把握する。

以上